

るためのステップを踏み出すこと、自己実現を図る事の出来る力を備えるように支援を行う事を目的とされているとのお話でした。そのワークショップの進行役としてファシリテーターが必要となります。ファシリテーターとはリーダーや何かを教えたりする存在ではなく、参加者と共に学び考え参加者と一緒に成長していくことを意識しながら、参加者一人ひとりが活動に参加しやすいよう、また参加者同士のやり取りを促すための存在であるとのお話でした。

実際にワークショップを行いながら研修を受けたのですが、お互いに批判はせず「同じこと」と「違うこと」の事実を受け入れるようにと冒頭のワークショップのルールでお話があったこともあり、最初の他己紹介から和やかな雰囲気で行われました。親として障がいのある子供との身体的・心理的な距離感を振り返るワークシートや、将来の夢を考えるワークシートなどを行いながら、自分を客観的に振り返りそれをグループの方に聴いてもらう。思っていたことを言葉に置き換えることで、漠然とした思いを整理して考えることができると感じることができました。その中で障がいのある方の保護者の方々は、障がいの程度や年齢に関わらず、不安事や心配事を抱えておられ、安心して肩の力を抜くことができる時間が少しでもあればと思っていることがよく分かりました。今後、ご家族の方々の支援をしていくうえで、そのような支援を考えていく必要を感じることができ研修でした。



第15回 アミティ舞洲運動会 が開催 されました

はばたく 管理者 福井 武巳

平成25年11月22日(金)恒例となりました大阪市手をつなぐ育成会小規模事業所協議会主催アミティ舞洲運動会がアミティ舞洲障がい者スポーツセンターアリーナにて開催されました。

5月中旬、アミティ舞洲運動会検討会が開かれ、今年度の運動会が開催されること、新しい形での実行委員会が結成されることが決定いたしました。例年は育

成会事務局を中心に会議が開催されておりましたが、今年度は普段参加者に接する事業所職員が中心となることで、参加者の希望を多く取り入れた、フットワークの軽い運動会を目指すことになりました。

また会議の会場も社会福祉センターの一室をお借りして行っておりましたが、今年は少し趣向を変え、参加事業所の一室をお借りし行うことになりました。結果たくさんの事業所をまわることで、会議だけでなく、他の事業所の取り組みの様子を実際に目にすることができ、大変勉強になりました。

実行委員会では運動会のプログラム、運営方法などを中心に話し合います。今年は特にすべての参加者が楽しめるプログラムと、安全管理について多く話し合いを重ねました。

事業所利用者の高齢化による体力低下が見られる事業所、逆に体力に余裕がある新卒利用者が増えた事業所など、事業所ごとでそれぞれの個性があり、意見の食い違うことも多々ありましたが、その都度時間をかけて話し合うことで最善の結論を導きだし、運動会に反映させることが出来ました。

また忘れてはならないのが、参加者による本人委員会の存在です。

数年前から続いている本人委員会企画プログラムも、年々本人委員の意識が高まり、それぞれの事業所メンバーの意見を取り入れ、活発に会議をかさね、今年は「かりもの競走」を企画、備品の準備作成、当日の司会進行など活躍されていました。

これらの会議、準備を重ね迎えた「第15回アミティ舞洲運動会」では開会式から始まり、準備体操「エビカニクス」「玉入れ」「昼食タイム企画の私こんな特技持っています!発表会」「スターボウル」「かりもの競走」「パン食い競走」「リレー」「閉会式」といったプログラムが実施され、大きな事故もなくたくさんの笑顔で終えることが出来ました。



5月の会議から約半年間、今振り返るとあっという間でした。実際に実行委員、本人委員として運営に携わる人間は一部ですが、運動会での備品の作成、競技の練習、当日運動会で大きな声援を送り、競技に参加